SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

研究主題について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00010386

研究主題について

２０００年代に入り，知識の獲得を第一義とした従来の教育と対比されるかたちで，資質・能力の育成を重要視する教育改革が世界的な潮流となってきている。代表的なものとして，OECD の DeSeCo プロジェクトによる「キー・コンピテンシー」や，アメリカを中心とした国際プロジェクトである ATC21S による「２１世紀型スキル」などが挙げられる。これらの研究成果を参考に，現在，世界の多くの国や地域で育成すべき資質・能力を定義し，それを基盤としたナショナル・カリキュラムを開発する取組が進められている。日本においては，「生きる力」の育成を掲げた現学習指導要領が世界的に高い評価を得たことを踏まえ，資質・能力の育成をさらに推進するため，次期学習指導要領に向けた改訂作業が進められ，本年３月３１日に公表された。

このような状況の下，本校においても資質・能力の育成に向けて大きく舵を切るべく，平成２６・２７年度研究「ともによりよい社会を創造しようとする市民性の育成」が行われた。すなわち，その取組は，従来の教育活動を資質・能力の育成の視点から再構築しようとする試みであった。それは，長年の教育研究の成果により形づくられてきた本校の教育活動が，既に資質・能力の育成に向けて先進的なものであるからこそ成り立つものであった。

本校では，昭和３０年代より，主体的に学びに取り組む姿勢を重視した実践的な教育研究が行われてきた。昭和４９研究年度からは，Ｂ.Ｓ.ブルームのタキソノミー（教育目標分類学）をもとに「学習目標分析」を行い，学習目標の明確化を図った。これをもとにして，昭和５５研究年度からは,「自己学習能力」を高めることをめざした研究を行った。この研究は，知識と能力を分けてとらえることで，生きて働く学力を育成するものであった。平成元研究年度からは，前研究を更に発展させ，生徒に自己の生き方を問う教育のあり方を追究し，自己実現に向けた学校全体のカリキュラムとして提示した。その後，平成８研究年度からは，研究の視座を社会における自己の生き方・あり方の追究に広げ，平成１４研究年度以降は，社会をよりよいものにしていく担い手の育成をめざした教育実践が続けられている。

このような教育研究の成果の上に成り立つ本校の教育活動は，主体的な学びや生き方の追究を重視し，知識の獲得だけでなく，人間に内在する能力の育成をめざすものである。また，身につけた知識や育んできた能力を，学習だけでなく，よりよい社会の創造に向けようとするものである。これらの特徴は，今日，まさに世界の教育が資質・能力の育成の下にめざそうとしているものである。

そこで，本研究では，従来の教育活動と平成２６・２７年度研究で示された資質・能力の育成の方向性を継承しつつ，資質・能力の全体像やその資質・能力を育成するためのカリキュラムのあり方をとらえることを手始めとし,実践的な教育研究を推進していくこととした。これは，だれもが自分の夢の実現やよりよい社会の創造に対して，喜びや生きがいを見いだして生きていくことができる「希望の未来」を拓くための資質・能力の育成をめざすものである。

それを受け，平成２８研究年度から下記の通り研究主題を掲げている。

【附属浜松中学校研究主題】
「希望の未来を拓く資質・能力の育成」

今後も，平成２８研究年度を始めとした６年間の計画により，平成３３年度から全面実施される中学校の次期学習指導要領を見越して，資質･能力の育成に向けた教育モデルを開発・提示していきたい。